

The Journal of Scuola dei Bambini Vol.003 Dec.2022

「Scuola dei Bambiniの活動に寄付を募っています」

收支報告



問いから始まる学び→ “自分への冒険の旅”

2022年9月よりオランダのデルフトにてAMI(国際モンテッソーリ協会)6-12歳のモンテッソーリ教員免許取得に向けて、世界各地から集まった仲間と共に学んでいます。そこで気づいた学びの本質、日本との違い、リアルな課題とは…



モンテッソーリの小学校課程の学び

モンテッソーリの小学生課程を学び始めてみると、自分が受けてきた日本の学校教育とは「学び」の捉え方が全く異なり、驚きの連続、感動の毎日です。

自分が見えていた世界は、広大な宇宙の歴史のほんの一部に過ぎず、知らない世界がまだまだたくさん。自分の子ども時代を思い出しながら、一から新しいことを学んでいくような感覚で、「この先にはどんな世界が待っているんだろう」と知的好奇心に駆られています。

私たちが受けてきた学校教育を思い浮かべると、学年ごとに配布される各教科の教科書で時間割の通りに進められる授業、単元ごとに行われるテスト、五段階評価の通知表。世代を超えて、共通する部分が多いのではないのでしょうか。

だからこそ、皆さんが「モンテッソーリ教育の小学校に通ったら、日本の学習指導要領を網羅できるの?」と疑問に沸き起こるのも当然だと思います。

結論から述べると、6年間を通して**小学生の学習指導要領は網羅できる、もしくはそれ以上の学びを得ている可能性もあります。**



モンテッソーリの小学生課程の学びの大枠(一部)

「日本の学習指導要領は、なぜ、誰のためにあるのだろう?」現在、世界各国から集まったクラスメイトと共にモンテッソーリ教育小学校課程に浸かる中で、湧いてきた疑問です。

「勉強すること」≠「学ぶこと」 学習指導要領における学習は?

一般的に、「学習」には「学ぶこと」と「勉強すること」の二種類あると言われています。

学ぶこと＝

自分が深掘りしたい問いについて、主体的に探究すること。(努力を要しない学習)

勉強すること＝

すでに誰かが知っている正解について、早く理解すること。(努力を要する学習)

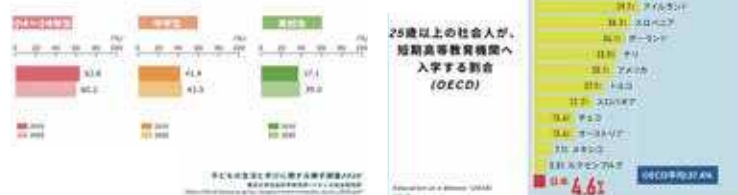
「学習」という言葉から連想されるのは、「公式や定理は覚えるもの」「テストで出るから」「暗記しなければいけない」「間違えてはいけない」等々…【ザ・努力を要する勉強】のイメージ。

日本の学校教育では、教科書に基づいて覚えなければいけない範囲が学年ごとに詳細に決まっていて、先生達は、子どもたちに各教科、単元ごとの内容を身につけさせなければなりません。

自由な保育園時代から一転、小学校に進学した途端、既存の知識を効果的に頭に入れ、テストで成績を評価される＝いわゆる学校教育が始まり、学年を追うごとにその量は増えていくばかり。

その結果として、勉強に対するマイナスイメージが付いたり、学年が上がるごとに勉強が嫌いになっていったりする子どもたちが増えていってしまうのです。

勉強が好き?



この功罪は大人になっても続きます。日本では、社会人になって大学に戻る人は欧米に比べて少なく、新しい学びを始める心理的ハードルが高いなど、学び続けること自体を卒業する人や、仕事でも「正解を与えられないとできない」大人が多いと感じています。

学習は辛いこと? 耐えること? つまらない?

しかし、本当に学習は辛いこと、耐えること、つまらないことでしょうか。

思い出してみると、小さい頃は「あれはなにに?」「どうして?」「なんで?」とたくさん疑問が沸き起こり、親や周りの大人に質問したことがあると思います。

子育て経験のある皆さんにとって誰しも、一度は子どもから質問攻めされた経験があると思います。**幼い頃の子どもの知識欲は限りを知りません。私たち人間は本来、「知的好奇心」が旺盛な生き物**なのです。

知らないよりも知っている方が面白く、自分が知ったこと



を誰かに説明できると、そのことがうれしく、心地いい!という知的好奇心こそ、人間だけが文明を築き上げてきた理由ではないでしょうか。

子どもにとっても、そして大人にとっても「学ぶこと」はワクワクするものでありたい!それはモンテッソーリ教育の中で最も目指しているものです。

大人は正解を与えない。大切なのは、自分で発見すること。

大人は子どもたちからの質問攻めに、その好奇心を奪わないようにと、すべて答えなければならないのでしょうか?…いえいえ!そういう必要はありません!

正解が常に与えられ、いつも同じ角度から物事を見ていたら、自分の問いの入り口はどんどん狭くなっていきます。

問いを投げかける相手が多ければ多いほど、多様な考えに触れることができますし、その中から自分らしい答えを選択していくことも可能です。例えば、お父さんとお母さんでは、同じことを説明していても、使う言葉、語彙が違います。それを考えただけでも、触れる言葉のバリエーションがお父さんとお母さんで2倍になります。

また、できなかったことができるようになった時、誰かに知



らせたい!見せたい!と思った経験、自分の五感を使いながら、新たな発見をした時、思わず感情が溢れるほど感動した経験はないですか?

「それまで気づかなかったものに気づく」「見えていなかったものが見える」「わからなかったことが分かる」というのはまさに**自分自身への冒険**であり、自分自身が生きている世界が広がっていく体験です。そしてこのような体験には、必ず喜びや感動が伴うからこそ、学びは本来もっと楽しいものであるはずです。

好奇心を奪っているのは誰?

そんな強い知的好奇心を持っている子どもたち。なぜ年齢が上がるにつれて好奇心がなくなってしまうのでしょうか。

子どもの質問攻めに対して、イライラしてしまったり、しつこいと思ってしまったこと…、答えを知らないといつ「そんなの知らないよ」「今忙しいから後にして」と言ってしまった…、悪気なく答えを有耶無耶にってしまう…誰しも一度は経験があると思います。

また、なぜ勉強をしなければならないのかと問われれば、大人は「子どもの仕事だ」とか「いい点数取らなきゃ…」とか、「とにかく文句を言わずにやりなさい」と言ってしまう。

知らず知らずのうちに、人生の成功は、良い成績を取り、進学校に進み、大学を出て、良い会社に入ること、「試験」や「受験」「いい点数をとる」ことが勉強の目的になっていく…。さらに、親や先生、他人の期待に常に応え、良い評価を得ていないといけない…。

いつしか「学習」は、自分の知的好奇心を満たす(自分の問いについて学びを深めていく)ものではなく、**周りの期待に応えるための勉強に時間を奪われ**、自分で問いを持つこと、問いを探究することは時間の無駄になるという感覚が植え付けられてしまいました。

これからの未来を生きる子どもたちの好奇心も、学習欲も、探究心も、このままだとそのように奪われていってしまう…。私たちはここに大きな危機感を感じています。

6歳に幾何学を与える

モンテッソーリ教育の小学校教育では、長い歴史の中で偉人たちが発見した過程を、子どもが自らの手を動かし、探究していくことで「発見」していきます。

その一つに、「幾何学」という学問を6歳児に与えます。

日本では一括りに「算数」とされていますが、マリア・モンテッソーリは、幾何学がいかに実生活に根付いていて、子どもを取り巻く全ての自然環境に存在していることに気づく面白さを説きました。幾何学は、子どもの抽象的な思考を構築する上で重要な役割を担っています。

そもそも幾何学とはどんな学問でしょうか。

幾何学は英語で‘Geometry’。ギリシャ語で‘Geo’は「地球」を、‘metria’は「測る」を意味しています。つまり、‘Geometry’＝「地球を測る」学問なのです。その起源は古代エジプトまで遡ります。

地球を測る幾何学の世界は、単に形を理解するだけではありません。日々見て、感じて、体験する中から、幾何学と共通するものを子どもたち自身が見つけ出します。幾何学の概念が感覚的に取り込まれると、日常生活のあらゆるところに幾何学の世界が隠れていることに気づきます。



例えば、花の形やフルーツの断面図など目に見えるものだけでなく、雪の結晶など肉眼では見えないものにも幾何学が隠れていること、ご存知でしょうか？

モンテッソーリの幾何学のレッスンでは、具体的な感覚を様々な体験や実験を使って探求し、発見していき、抽象概念を理解していきます。つまり、正解や結果を求めるよりも、「創造性」が鍵になるのです！

▼Magic Box

幾何学のレッスンの一つに、構成三角形 (Constructive Triangle) があります。

構成三角形のレッスンは幼稚園から始まるため、モンテッソーリ園に通っている子どもたちはすでに感覚的に学んだことがあると思います。

この6つの構成三角形の箱の一つに、12枚の直角三角形が入った‘Magic Box’があります。

直角三角形を何個使い、どのように配置したら、どんな形ができるのか。どうしてその形が生まれるのか。子どもたちは自分の手を動かしながら、辺と角度、三角形の関係性について学んでいくことができます。



目には見えづらい子どもの感性を信じる

学年ごとに細分化された学習指導要領や、それに伴ったテストは、子どもの学びの進捗を評価しやすく、わかりやすいです。全国どこでも一定水準が保てるように作られた学習指導要領では、その内容を身につけることに焦点が置かれ、**学ぶことへの興味関心やワクワク感は置き去りにされてきました。**

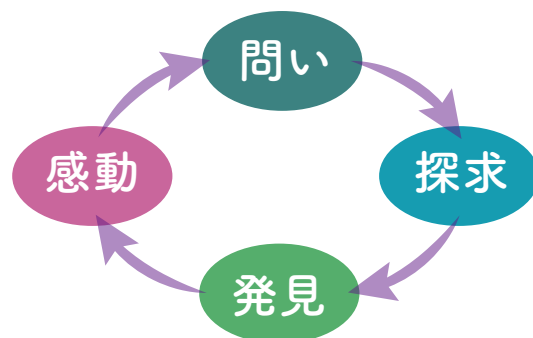
学びへの入り口は日常の至る所に隠れており、**自分への冒険 (Quest) の旅は、実生活の中で湧き上がってきた問い (Question) から始まります。**

子どもたちが自分で発見していく学び、深い探究の正解は一つではありません。子どもたち自身の中にある目に見えないものだからこそ、点数化して評価することは難しい、というより**不可能**です。そして、自分で発見していくことは、与えられた答えよりももっとワクワクし、楽しい！点数化される表面的なものよりも、もっとずっと価値あるものだと思います。

学びにおける発見と感動のサイクルの中で、もっと冒険したい、もっと感動したいと自ら旅を突き進むことができれば、子どもたちの前にどんな世界が開かれていくでしょう。私たちの想像にも及ばないものかもしれません。

今、目の前の子どもの「知りたい!」「なんで?」「学んで楽しい!」というワクワク感に耳を傾け、彼らの学びの原動力にすること。誰かの「正解」に生きることなく、自らの「学び」を一生の武器にできれば、将来どんなことがあっても自分の人生を幸せに、ポジティブに生きていくことができると確信しています。

そのサポートこそが、大人が子どもにできる最高の贈り物なのではないでしょうか。



卒園児の部屋

Room of graduates

カーサ・デ・バンビーニ恒例のお芋掘りに、卒園児のKentoとRentoが参加してくれました。



開始の号令とともに、畑の畝に降り立ったKentoが率先してシャベルで芋の周囲を掘り、後輩たちが芋を取り出しやすいように地面を整えています。Charles先生が手を添えながら、次々と芋を露出させていきます。

まだ力の弱い子どもたちが芋を抜くのに苦戦する姿を見るや、そばからそっと手を差し伸べるRento。2人は昨年（一昨年）まで参加してきたイベントで先輩としての振る舞いを見せてくれました。



Adults 「学校で友だち出来た？」

Kento 「うん。10人くらい。あ、でも本当に仲いいのは5人くらいかな」

Adults 「喧嘩とかは？」

Kento 「ひどいやつがいて喧嘩になったことあるけど、ちゃんと話して仲直りできたよ。今は仲いいよ」

子どもたちの社会では小さなことがきっかけでわかりあえない、大人でも対処しにくいようなことが起きます。学童期の子どもたちの大きな発達の一つ“Social Skill（社会性）”。小学生になると、友だち同士のやりとりの中で磨いていくスキルだからこそ、大人はもう立ち入れない領域。それまでの親子の信頼関係や、子どもが築いた自己肯定感、「自己の確立」がダイレクトに影響し始めます。

Kentoは理解し合うことの大切さを、身を持って体験したようです。



掘った芋の量なんと70kg以上！
今年は天候に恵まれて芋の形もよく大豊作でした



過去最高の参加人数で
大賑わいだった今年の芋掘り

Rentoにとっては芋掘りも大切ですが、掘っている最中に出てくるミミズや、突然の園児の襲来に驚いたバツヤやカマキリを追いかけるほうが最大の関心事です。捕まえたショウリョウバッタやカマキリ、コオロギ、クモを袋に入れて家に持ち帰るといいます。

Adults 「カマキリとクモを同じ袋に入れたら、どっちかがどっちかを食べてしまうんじゃない？」

Rento 「うん。食べるところを見れるかも」

Adults 「そのショウリョウバッタめっちゃ大きいけど、中にハリガネムシおるん？」

Rento 「ショウリョウバッタは中にハリガネムシはおらんよ」



6歳までは「敏感期」に助けられ色んなことを吸収して学んでいましたが、小学生以降は敏感期もきれいさっぱり消え去ります。それに変わるのが「知識・文化の獲得」のアンテナ。内なる欲求に駆られ、自分の興味を揺さぶるものや、大人が魅力的に語ること、伝記から、もっと学びたい！知りたくてたまらない！！という姿が見られるようになります。

想像力もぐんと豊かになり、直接触れるものが目の前になくても、限りなく広く物事を捉えられるようになります。このような学童期の特徴があるからこそ、特に勉強に向く年代でもあります。暗記ものも比較的容易になりますが…、勉強＝暗記、テスト、「とにかく言わずに覚える！」よりも、自らの興味を揺さぶるものをどこまでも深く、何時間でもどれだけでも調べる、というような積極的な学びの方が、知らない間に他の分野の学びにもつながったりします。そんな理想的な「学び」の広がりや、どうしたら実現できるのか?! 大人の意識変革が今試されている気がします。

Summer Boarding School

3泊4日
サマースクール

8月の夏休み期間に、Scuola dei Bambini初めての年長児～小学3年生までの学童期のお子さまを対象としたサマーボーディングスクールを開催しました。

Scuola dei Bambiniのサマースクールでは、子どもたちの自己教育力を尊重し、子どもたちが中心となり、4日間の生活を組み立てていくことを重視しました。その結果、第2期と第3期では、自主学習時間の過ごし方、外活動の行き先、4日間の献立も全く異なる内容になりました！

家族の元を離れて、初めて会う仲間と生活を共にした3泊4日。普段であれば、ご飯の準備や洗濯、片付けなどは家族の誰かがしてくれていたかもしれませんが、どこかへ出かけるときには、目的地までの行き方を調べて、交通手段や乗車



料金を計算して自分でお金を払うことも多くの子どもたちにとっては初体験でした。

子どもたちが主体の4日間は、楽しいことばかりではなく、時には仲間とぶつかること、家族が恋しくなる瞬間もありました。けれども、様々な体験をして日を過ごすことに、子どもたちが自分でできることも増え、仲間と協働することを学び、1日目の姿とは見違えるほど逞しさを感じました。

最終日のお別れパーティーは、子どもたちが主導でランチを準備して、お父さんお母さんを招待しました。久しぶりに会う家族のために一生懸命準備する子どもたちの主体的な姿に、一歩、自立した子どもたちの姿が垣間見えたと同時に、私達大人も子どもたちから学ぶことがたくさんありました。



WORLD TOUR

5泊7日ワールドツアー

8月末にScuola dei Bambiniと合同会社カーサ・デ・バンビーニと合同でワールドツアーを開催しました。今回のワールドツアーは、異国の地を踏むことで自分とは異なる価値観に触れて、多様性やグローバル感覚を親子で共に養うことを目的に開催しました。今回の旅先は子どもの幸福度が世界No.1と言われているオランダ。

ツアーでは、オランダ文化の体験や芸術に触れることはもちろんのこと、オランダのモンテッソーリスクールも訪れました。



日本から飛行機で約20時間離れたヨーロッパは、参加したお子さまにとっては初の大冒険。子どもの吸収力は大人の想像をはるかに超えていきます。大人になると、なかなか自分と異なる存在や生活様式を受け入れることができず、思い込みも増えてきてしまいます。

一方で、異文化と多様な価値観に触れながら、日に日に伸び伸びと感性が開き、自己表現が豊かになる子どもの姿には、無限の可能性を感じました。

World Tourは新たな価値観の扉をあける一きっかけに過ぎませんが、オランダでのたくさんの出会いと体験が、今後の人生において何かの鍵となっていたら嬉しいです🇳🇱



みらいの学校

9月～11月の週末・祝日に山田緑地にて子どもが主役のフリーマーケット「みらいの学校」を開催しました。北九州市内で活動されている団体KIDS MONEY KITCHEN様、Yadori木様（「子育てシェア」株式会社AsMama認定支援者による預かり合いサービス）との共同開催で、16組のご家族と共に4日間、体験学習を行いました。

参加した子どもたちは、自身の売上目標を設定し、店主となりフリマを開催しました。またそれだけでなく、「夢募金箱」を設置し、自分の目標を来店者にプレゼンして、夢に賛同してもらえたら募金をしてもらうという仕組みの対面型クラウドファンディング体験もしてもらいました。

このイベントは、フリマ体験を2回繰り返すことが特徴で、1回目の反省を生かして2度目のフリマに再チャレンジする機会を作ること、自分の目標達成に向けてどのように改善・行動するといったか？までを行うあたらしい学びのイベント

トです。この中で職員は参加した子どもたちの観察を行い、小学校でもらう「通知表」の代わりとなる、その子の強みや個性、今後のチャレンジ提案を記した「あゆみ」を配布しました。モンテッソーリの小学校でも、自分で目標を決めて実践する体験型学習・プロジェクト型学習（PBL）は学びのスタイルの軸となります。ここで得た興味や知識を生かし、子どもたちは更なるプロジェクトを自ら創り、次のイベントや体験型学習の機会に繋げていく予定です。



【収支報告】

2022年度上期(4月～9月)の収支内訳は以下の通りとなりました。

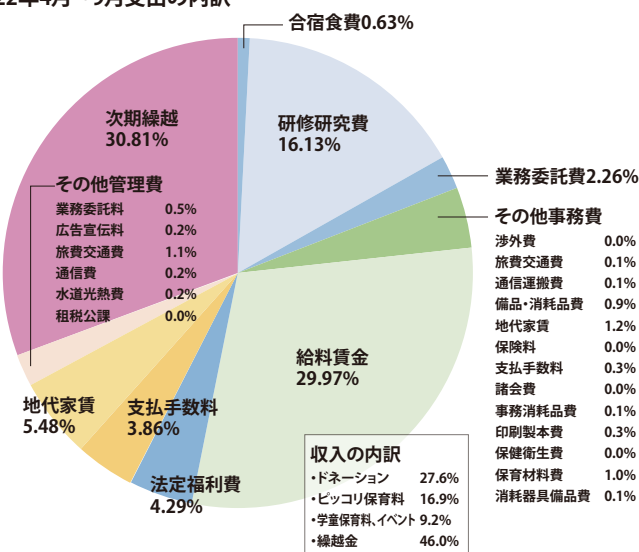
Scuola dei Bambiniはドネーションが活動費の大きな割合を占めています。

おかげさまで今年度上期も幅広い活動を行うことができました。

これもひとえに、活動にご理解・ご協力くださっております皆様のおかげです。

これからも、子どもの成長と個性に合った教育の機会を提供できるようさまざまな取り組みを行って参りますので、よろしくお願いいたします。

■2022年4月～9月支出の内訳



活動報告◆2022年6月～2022年11月の主な活動

- 6月22日 NPO総会
- 26日 鍾乳洞ツアー
- 27日 スコーラカフェ(オンラインの集い)
- 7月16日 民間学童施設「みらいく」様見学
- 22日 カーサ・デ・バンビーニ向け保護者会開催
- 25日 スコーラカフェ(オンラインの集い)
- 8月8日～11日 サマースクール(1回目)
- 17日～20日 サマースクール(2回目)
- 24日～29日 ワールドツアー(オランダ訪問)
- 9月17日 NPO活動体験オリエンテーション
- 25日 みらいの学校Day1(山田緑地)
- 30日 スコーラカフェ(オンラインの集い)
- 10月16日 みらいの学校Day2(山田緑地)
- 22日 NPO活動体験(認可保育園 光楽園様 運動会参加)
- 23日 みらいの学校Day3(山田緑地)
- 27日 スコーラカフェ(オンラインの集い)
- 11月4日 カーサ・デ・バンビーニ卒園生対象合同芋掘り遠足
- 23日 みらいの学校Day4(山田緑地)

LINE登録で、
イベント情報
をゲット



LINE

各SNSでも情報発信中。
登録はこちらから→



Instagram



Facebook



Note

日本の教育の未来にあなたの力を貸してください

Scuola dei Bambiniにはいろんな関わり方があります

少額からの寄付を募っています

今の活動をサポート

【単発支援】

5,000円 学校を作るための
10,000円 設備投資や人件費
50,000円 に使わせていた
100,000円 だきます。

未来の学校をサポート

【毎月支援】

1,000円(12,000円/年)
3,000円(36,000円/年)
10,000円(120,000円/年)

ボランティアサポーター・賛助会員・正会員のご案内

ボランティアサポーター

- ・会報誌「スコーラ通信」配布
- ・スコーラ限定グッズを購入できる権利
- ・自発的なイベント企画、運営へ参加する権利

年会費0円

賛助会員

- ・会報誌「スコーラ通信」配布
- ・スコーラ限定グッズを購入できる権利
- ・イベント企画、運営へ参加する権利

年会費3,000円

詳細は、
Scuola dei Bambini
ウェブサイトで



for Good!

フォアグッド

緊急予告

12月中旬
クラウドファンディングに挑戦します!

2023年9月、モンテッソーリ6-12歳レベルのトレーニングコース終了を目処に国際モンテッソーリ小学校を立ち上げを目指しています。

その第一歩として、ボーダレスジャパンが運営するForGoodを通じてクラウドファンディングに挑戦します!

未来に可能性を秘めた子どもたちのために、ぜひお力を貸してくれませんか。

※クラウドファンディングの詳細については、Scuola dei BambiniのホームページやSNS等で随時情報を更新致します。

※For Good!は、「目の前で困っている人の力になりたい」「身の回りで起きている理不尽なことを、放っておけない」「社会が前進するアイデアをカタチにしたい」など、“社会をより良くしたい”という思いを行動に変えるクラウドファンディングです。

Scuola
dei
Bambini



NPO法人 Scuola dei Bambini
北九州市小倉北区吉野町12-19
会報誌Vol.003
2022年12月1日発行